

価格.com

2010年2月25日
株式会社カクコム**第38回価格.comリサーチ『カメラ利用状況アンケート』結果**

デジタルカメラの所有率は9割超、新規ユーザー獲得は厳しい戦い
デジタル一眼レフの購入意欲は一段落、今後、市場は縮小傾向に？
コンパクトデジカメだけを持つ人は6割に増加、初心者にも利用が拡大
今後買いたいカメラ関連製品、注目はデジタルフォトフレーム

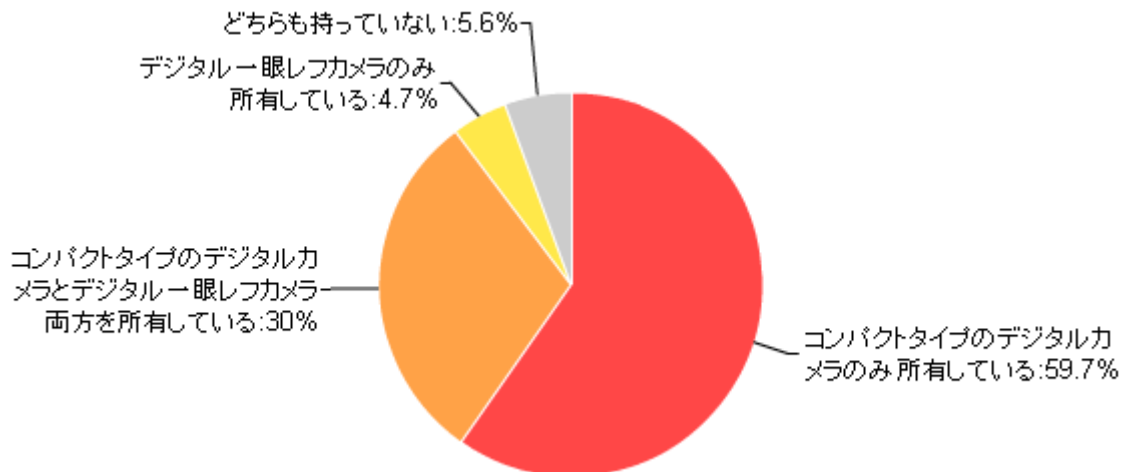
株式会社カクコムが運営する購買支援サイト「価格.com (<http://kakaku.com/>)」が実施したユーザーへの意識調査「価格.comリサーチ」より、第38回調査『カメラ利用状況アンケート』から、結果を一部抜粋の上、ご案内します。ここ10年ほどで普及が著しいデジタルカメラについて、所有状況や利用頻度、今後の購入意向について調査しました。一部設問においては、2008年10月におこなったデジタル一眼レフカメラに関する調査結果 (<http://kakaku.com/research/backnumber022.html>) とも比較しています。

詳細結果：<http://kakaku.com/research/report/038/>

デジタルカメラの所有率:94.4% コンパクトデジカメはエントリーユーザーまで利用者拡大

価格.com ユーザーのデジタルカメラ所有率は、「コンパクトデジタルカメラのみを所有」が約6割。また「デジタル一眼レフカメラのみ所有」が4.7%。「どちらも所有している」が3割ちょうどとなり、全体でのデジタルカメラ所有率は94.4%になった。

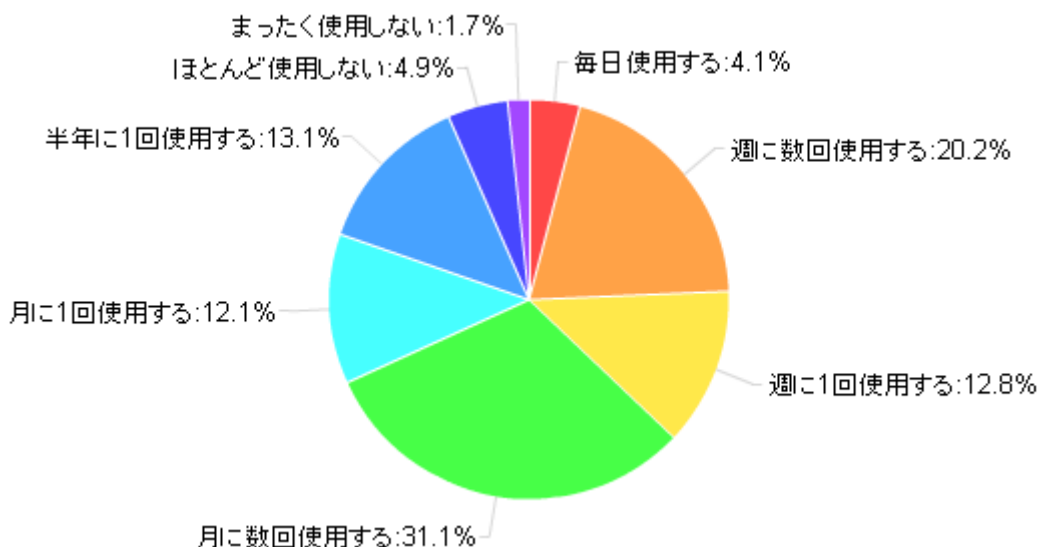
2008年10月に行なった、デジタルカメラ所有状況に関する調査結果では、「コンパクトデジタルカメラのみを所有」が50.1%、「デジタル一眼レフカメラのみ所有」が5.8%、「どちらも所有している」が38.6%で、全体でのデジタルカメラ所有率は94.6%という結果で、全体の所有率はほぼ変わっていない。ただし、所有の内訳が変化し、コンパクトデジタルカメラの所有者が増加していることから、ここ1年でデジタルカメラを購入するユーザーが、以前の「カメラ好きな人」からより一般化し、エントリーユーザーのすそ野が広がっていることがうかがえる。

【図1. デジタルカメラの所有率】

使用頻度:1位は「月に数回」(31.1%)、「週1回以下」は約75%

カメラの使用頻度でもっとも多かった回答は「月に数回」で31.1%。「週に数回」という回答も20.2%と比較的多かったが、全体的には「週に1回以下」という利用頻度が全体の約75%を占めており、それほど日常的に持ち歩いて使うというほどではないようだ。週に一度、あるいは月に数回、旅行やイベントのときに持ち出して使うというような使われ方が一般的といえるだろう。

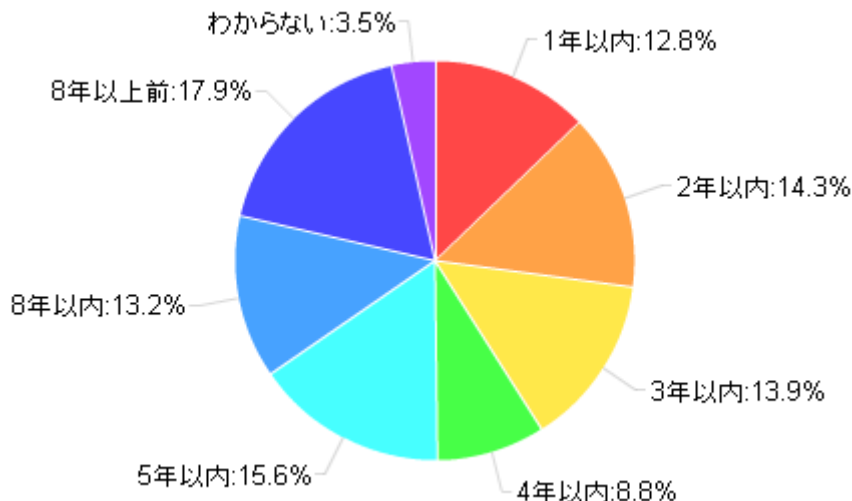
【図2. カメラ全般の利用頻度について、あてはまるものを以下のうちひとつお選びください】



デジタル一眼レフの購入時期:「4年以上前」が半数近くを占める

デジタル一眼レフカメラの所有者に聞いた最初の購入時期は、ほぼ均等に分かれる結果となり、ここ10年近くコンスタントに売れ続けていることがわかる。もっとも多かったのは「8年以上前」の17.9%だが、飛び抜けて多いというわけではない。ちなみにデジタル一眼レフカメラが市場で一般的に売り出されたのは今から10年ほど前になるので、この時期に購入したという人は、ほぼ黎明期からのユーザーと言っていいだろう。全体的に見ると、「4年以上前」が半数近くを占め、デジタル一眼レフカメラ所有者の半数程度が4年以上前からデジタル一眼レフカメラを所有しているということがわかる。

【図3. デジタル一眼レフカメラを所有している方にお聞きします。初めてデジタル一眼レフカメラを購入された時期を以下のうちよりお選びください】



デジタル一眼レフカメラシェア：1位はキヤノン（37.2%）、次いでニコン（27.9%） カメラ歴の短いユーザーや女性にはオリンパスやパナソニックが人気

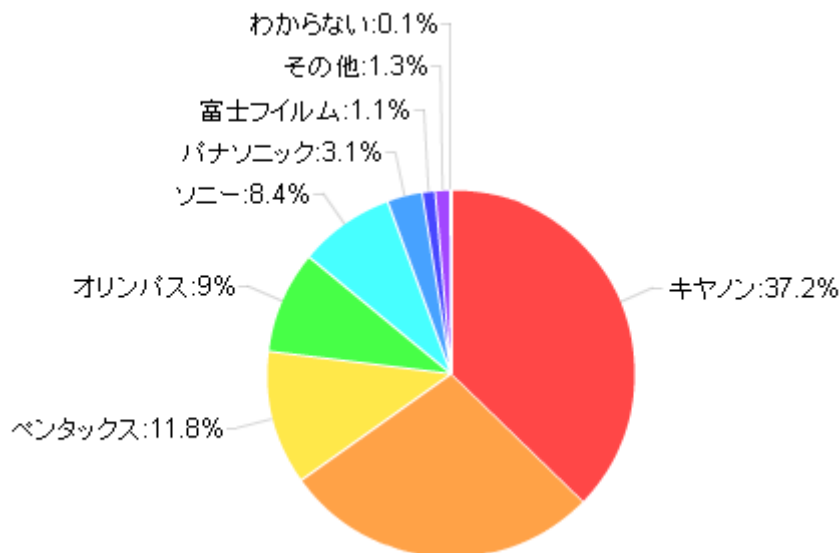
もっともよく使用しているデジタル一眼レフカメラの所有メーカーで、もっとも多いのはキヤノンで37.2%、次点がニコンで27.9%、以下、ペンタックス、オリンパス、ソニーとなった。

2008年10月の調査では複数回答としたため一概に比較はできないが、その結果はキヤノン（41.9%）、ニコン（33.7%）、オリンパス（15.0%）、ペンタックス（14.3%）、ソニー（11.3%）となっており、それほどの順位変動はないが、全体的にはニコンとオリンパスが6ポイント近くシェアを落とした。

カメラ所有歴別で見ると、シェアの大きな変動こそないものの、いくつか細かい変化が見て取れる。シェア首位のキヤノンはどの層でも一定の支持を得ているが、次点のニコンはカメラ歴が長いほどファンが多い。また、それ以降のメーカーで見ると、ソニー（旧コニカミノルタ）のユーザーが徐々に減少しているのに対し、オリンパスやパナソニックのシェアが徐々に上がっていることがわかる。これは、2009年にヒットしたマイクロフォーサーズ規格を採用した「デジタル一眼カメラ」の人気が大きく影響している。なかでもパナソニックの躍進はめざましく、直近1年のシェアではソニーを抜いて、5位に浮上しているほどだ。

また、この所有率を男女別に見ると、さらにおもしろい結果が見て取れる。首位のキヤノンは男女でそれほどシェアの変化はないが、ニコンやペンタックスは男性のシェアが高く、オリンパス、ソニー、パナソニックなどでは逆に女性のシェアが高い。この結果から見ても、小型のマイクロフォーサーズ規格を採用したオリンパスやパナソニックの「デジタル一眼カメラ」が、女性にかなり支持されていることがわかる。逆に、ニコンやペンタックスの製品は、スタイルよりも画質にこだわる男性ユーザーにより多く支持されているということだろう。首位のキヤノンについては、男女のいずれにも同じくらい支持されており、同社のラインアップ展開や、CMなどによるイメージPRが光る結果となった。

【図4. 所有しているデジタル一眼レフカメラのメーカーはどこですか？
複数台お持ちの方はもっともよく使われているものについてお答えください】



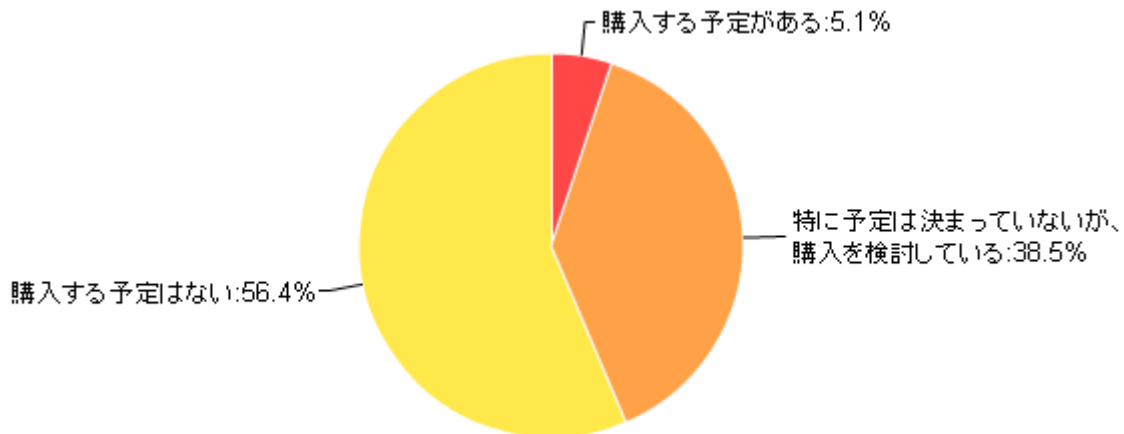
【所有しているデジタル一眼レフカメラのメーカーはどこですか？
複数台お持ちの方はもっともよく使われているものについてお答えください】
カメラ所有歴別・男女別結果は以下の URL にてご確認ください
<http://kakaku.com/research/report/038/p02.html>

デジタル一眼レフカメラの購入予定:「予定あり」・「検討中」合わせて43.6% 2008年10月調査から24ポイント減少、潜在ユーザーの割合は低下

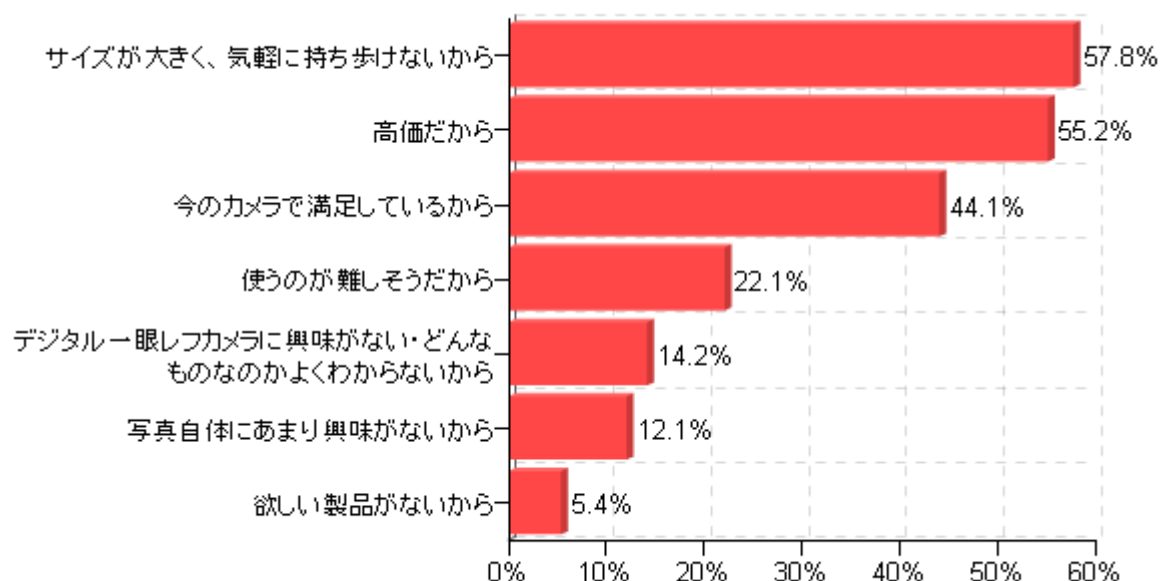
デジタル一眼レフカメラを所有していない回答者に、今後のデジタル一眼レフカメラを購入予定について聞いたところ、「予定がない」が「予定がある」を13ポイント近くも上回った。ちなみに、2008年10月の調査では、「予定がある」「検討中」を合わせると67.7%となり、今回より約24ポイント高い結果となっていた。このことを考え合わせても、デジタル一眼レフカメラの潜在的ユーザーの割合は低くなっていることが見て取れる。

その背景には、デジタル一眼レフカメラの普及率がかなり高まっていることがある。デジタル一眼レフカメラの購入意向があった人の多くはすでに同製品を購入してきており、年々新規ユーザーは減少しつつある。また、購入しない理由として多くあげられている「サイズが大きく持ち運びに不便だから」「高価だから」は、デジタル一眼レフカメラの弱点ともいえるもので、こうした人はデジタル一眼レフカメラの新規ユーザーとはなりづらい。また「今のカメラで満足しているから」というような回答も比較的多いが、コンパクトデジタルカメラの性能も今や相当上がっており、普段使いのカメラであれば、まったく問題を感じていないというユーザーもかなり多いことがわかる。

【図5. デジタル一眼レフカメラを所有していない方にお聞きします。
今後デジタル一眼レフカメラを購入する予定はありますか？】



【図6. 「デジタル一眼レフカメラを購入する予定がない」と答えられた方にお聞きします。
購入したくない理由は何ですか？あてはまるものすべてお選びください。】

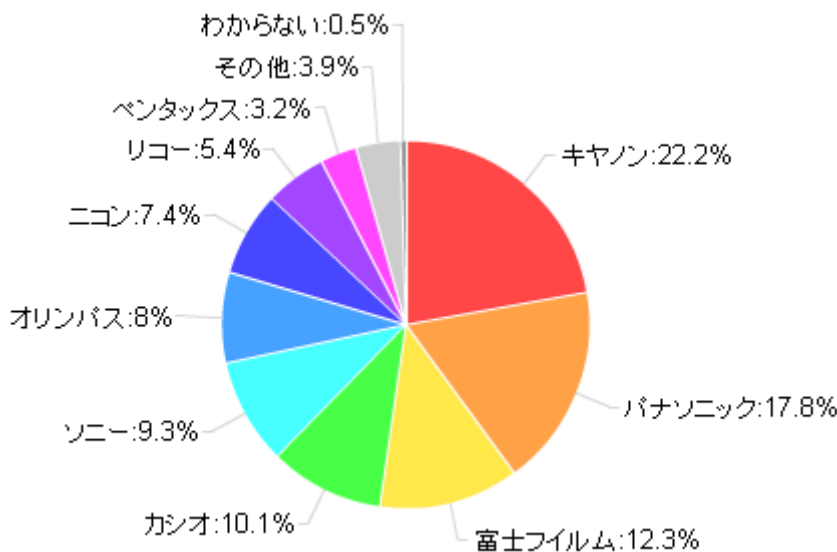


コンパクトデジカメシェア：1位はキヤノン（22.2%）、次いでパナソニック 女性ユーザーは、ペット撮影機能などを搭載した富士フィルムやカシオも支持

もっともよく使っているコンパクトデジタルカメラのメーカーに関しては、1位がキヤノンで22.2%、2位はパナソニックで17.8%、3位は富士フィルムで12.3%。以降、カシオ、ソニー、オリンパス、ニコン、リコー、ペンタックスと続く結果となった。2007年5月に行ったデジタルカメラに関する調査結果（<http://kakaku.com/research/backnumber005.html>）の結果（複数回答）と比べると、首位のキヤノンは変わらないものの、2位のパナソニックはシェア3位から順位を上げ、逆にシェア2位であった富士フィルムは3位へと後退している。以降のメーカーでは若干の変動はあるものの、シェアとしてはおおむね変わっていない。

この結果を、ユーザーのカメラ所有歴別に見ると、上位5メーカーのシェアは、それほど変化ないが、ここ1年の新規ユーザーでは、カシオとオリンパスのシェアがそれぞれ伸びているのが印象的だ。また、男女別にこの結果を見ると、男性ユーザーにより多く支持されているのは、パナソニック、オリンパス、ニコン、リコー、ペンタックスなどの製品であるのに対し、女性ユーザーにより多く支持されているのは、キヤノン、富士フィルム、カシオ、ソニーなどの製品であることがわかる。特に女性ユーザーからの支持が高いのが、富士フィルムとカシオの2メーカー。この2社の製品は、主に女性ユーザーをターゲットとした「ペット自動検出」や「ハイスピード」といったペット撮影に適した機能を備えており、そうした点が女性に受けているものと推察される。

【図7. 所有しているコンパクトタイプのデジタルカメラのメーカーはどこですか？
複数台お持ちの方はもっともよく使われているものについてお答えください。】



【所有しているコンパクトタイプのカメラのメーカーはどこですか？】
カメラ所有歴別・男女別の結果は以下の URL にてご確認ください
<http://kakaku.com/research/report/038/p04.html>

今後購入したいカメラ関連製品：1位は交換レンズ（18.7%）次いで「デジタル フォトフレーム」（14.4%）

カメラ関連の周辺機器などのうち、今後購入しようと思っているものを聞いた。もっとも多かったのはやはり「交換レンズ」（18.7%）で、デジタル一眼レフカメラのユーザーの多くがこの項目をあげた。意外なのは、次点につけた「デジタルフォトフレーム」（14.4%）。今人気急上昇中の製品だが、デジタルカメラユーザーの中では予想以上に注目度が高いことに驚かされる。以降は上位2製品と比べるとかなりポイントに差がついているが、「三脚・一脚」「画像編集ソフト」「フォトプリンタ」「フラッシュ」と続く。「画像編集ソフト」が4.9%と比較的高いポイントをつけたのが、やや印象深い。

【カメラ関連製品の中で、今後購入しようと思っているものをひとつお選びください。】
詳細結果は右記URLにてご確認いただけます <http://kakaku.com/research/report/038/p05.html>

【調査パネルについて】

調査エリア：全国

調査対象：価格.comID 登録ユーザー 調査方法：価格.com サイトでの Web アンケート調査

回答者数：9,077 人 男女比率：男 88.6%：女 11.4%

調査期間：2010 年 2 月 1 日～2010 年 2 月 8 日 調査実施機関：株式会社カカコム

※四捨五入による端数処理のため、合計が 100%にならない場合があります。

■総評（抜粋） 鎌田剛 カカコム メディアクリエイティブ部 部長

～一部抜粋～

デジタルカメラ全体での普及率は94.4%。この割合は1年ほど前の調査とそれほど変わっていないが、その内訳を見ると、コンパクトデジタルカメラのみの普及割合が上がっており、1年前から比べても、デジタルカメラが「カメラ好き」の人が購入する趣味的なものから、より一般的なものになってきたことがわかる。利用頻度については、「週に1回以下」という人が全体の4分の3を占めており、日常的にデジタルカメラを持ち歩くというよりは、週末などのイベント時にのみ利用するという使われ方が一般的。このあたりも、デジタルカメラ自体が特別なものではなく、従来のフィルムカメラと同じような使われ方に近づいていることを予想させる結果だ。

デジタルカメラ市場をこれまで牽引してきた印象のある「デジタル一眼レフカメラ」についての所有率は全体の34.7%で、前回調査より割合自体が減少。デジタルカメラ市場全体における相対的な地位は下がっている。直近の1年以内でも12.8%の人が初めてデジタル一眼レフカメラを購入しているなど、その人気はまだ持続しているが、デジタル一眼レフカメラを購入予定の人の割合が大きく減少していることを考えると、今後のデジタル一眼レフカメラ市場はやや縮小傾向に向かうものと思われる。

デジタルカメラは全体として見ればかなり普及が進んでおり、すでに9割以上の人所有する一般的な製品となったが、今後の新規ユーザーの開拓はかなり厳しい状況になっており、各メーカーとも独自の新機能や、撮影後の活用方法などを生み出すのに必死な状況といえる。特に、デジタル一眼レフカメラに関しては、今後の新規購入割合が減少すると見られており、今年2010年以降、各社ともかなり厳しい戦いを強いられそうだ。

※詳細結果、総評全文および過去のリサーチアーカイブは以下 URL をご参照ください
<http://kakaku.com/research/>

【価格.com データ】(2010 年 1 月末現在)

月間利用者数 2,398 万人、月間ページビュー 7 億 6,947 万 PV、累計クチコミ件数約 1,100 万件
複数ショッピングモールの商材を横断検索できるサービスを含めた掲載商品数は約 6,000 万点